

授業科目 がん治療看護学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
洪 谷 優 子、栗 原 弥 生		開講時期	後期	必修・選択	選択
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 がんの発生および死亡の動向に対する国の対策をふまえ、がんと治療に伴うがん看護の特徴を理解し、がん患者を基本的看護、がんの予防、早期発見の必要性を理解する。 がん治療に伴う倫理的問題を理解し、がん患者の病期の変化に伴う治療と病状や苦痛・苦悩を理解し、患者・家族のQOLの維持・向上をアプローチする必要性を理解する。					
【学習目標】 1. がんの特性と患者の治療に伴う看護を理解する。 2. がん患者の理解とQOLのアプローチを理解する。 3. がんの発生、死亡の動向に対するがん対策を理解する。 4. がん予防・早期発見活動の必要性を理解する。 5. がん治療として方法による作用、副作用と倫理的課題を理解する。 6. がん患者・家族の治療に伴う援助の必要性を理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	がんの特性と患者の治療・看護の理解 1)がんの動向 2) 病態の特殊性 3) がん医療及び治療の特殊性 4)心理的・社会的特徴 5) がん治療におけるチームアプローチ			1	講義、講義 洪谷
2	がん患者の基本的看護			2	講義 洪谷
3	がん患者とQOL 倫理的問題			2	講義 洪谷
4	がん予防 早期発見活動			4	講義 洪谷
5	がん治療に伴う看護			3	講義 栗原
6	1)手術療法の患者の看護			4. 5	講義 栗原
7	2)化学療法の患者の看護 3)放射線療法の患者の看護 4)がん患者・家族の治療に伴う援助			6	講義 栗原
8	まとめ レポート課題 「がん患者のQOLにおける構成概念の4つの要素の意味を考察」 QOLの構成概念の4要素 1. 日常生活における作業能力 2. 社会・人間関係を維持する能力 3. 心理状態 4. 身体的快・不快の程度				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		必要時 資料を提示する			
参考書		がん患者の看護 がんの統計' 08	監修 氏家幸子	広川書店 財団法人がん研究振興財団	
その他の資料					
【評価方法】 出席・レポート・定期試験で評価する 出席 10% レポート評価 30% 定期試験 60%			【履修上の留意点】 参考書を活用し、自主的に学習する。		